

令和2年度 第2回京都市保健所運営協議会 摘録

令和2年12月16日（水）
午後1時30分～午後2時45分
TKP京都四条烏丸カンファレンスセンター 3階「ホール3A」

1 出席者（敬称略）

＜委員＞

○関係団体代表委員

京都府医師会：松田 義和 京都府歯科医師会：奥田 純平
京都府薬剤師会：夏目 君幸 京都市保健協議会連合会：山崎 陽子
京都市食品衛生協会：（欠席） 京都府旅館ホテル生活衛生同業組合：中村 貞正
京都府公衆浴場業生活衛生同業組合：（欠席） 京都府理容生活衛生同業組合：佐藤 正一
京都府美容業生活衛生同業組合：原口 潔治

○各区地域保健

推進協議会代表委員 北：（欠席） 上京：（欠席） 左京：川勝 秀一
中京：沼田 幸夫 東山：（欠席） 山科：入江 和栄
下京：（欠席） 南：藤井 富美子 右京：松井 亮好
西京：安田 桂子 伏見：小川 正雄

＜事務局＞

○京都市保健所

（健康長寿企画課）

（医療衛生企画課）

（障害保健福祉推進室）

（こころの健康増進センター）

（子ども家庭支援課）

京都市保健所長：山田 典子
健康長寿のまち・京都推進室長：北川 博巳
健康長寿推進担当課長：絹村 円
企画調査担当：井尻 温子、川上 華輝
医療衛生企画課長：矢田部 衛
感染症対策担当課長：井上 ひろみ
担当係長：門脇 孝徳
相談援助課長：脇田 晴美
子育て世代包括支援担当課長：寺山 京美

京都市保健所参事：池田 雄史
企画係長：山田 賞晃
感染症企画担当課長：今崎 匡裕
「民泊」対策担当課長：田 陽介

2 開催あいさつ

山田 京都市保健所長

3 議事

○議題・報告（1）会長及び副会長の選出について

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明のうえ、従来どおり、会長には京都府医師会の松田委員、副会長には京都府歯科医師会の奥田委員に引き続き就任いただきたい旨を提案し、全会一致で承認。

○議題・報告（2）令和元年度京都市保健所運営方針取組結果及び事業実績について

⇒ 事務局（健康長寿企画課、医療衛生企画課、こころの健康増進センター、子ども家庭支援課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長： 本件は令和元年度の事業実績のため、新型コロナウイルスの影響は限定的であると思われるが、令和2年度以降の実績について概略はいかがか。

北川室長： コロナ禍において、中止すべきものについては中止とし、一方で継続して実施すべきものについては、感染対策の工夫を凝らしながら取り組んでいるところである。引き続き、関係団体の皆様の御協力をお願いする。

松田会長： 風疹の抗体検査の実施率はいかほどか。

今崎課長： 令和元年度は7%，令和2年度は現在把握している数で11.2%である。今後も引き続き周知等に努めていく。

○議題・報告（3）令和2年度各区地域保健推進協議会（部会）の開催状況等について

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明。特に質疑等なし。

○議題・報告（4）新型コロナウイルス感染症に係る京都市保健所の対応状況について

⇒ 事務局（医療衛生企画課）から資料説明。

【質疑応答】

松井委員： 新型コロナウイルス感染症の医療機関における相談体制について、11月から「きょうと新型コロナ医療相談センター」が開設され、相談件数も増えていると思うが、地域の医療機関への受診にスムーズに誘導できているのか。

井上課長： かかりつけ医がある方には、電話のうえ、かかりつけ医に受診いただき、かかりつけ医がない方については、府医師会と連携し、医療機関の受診につなげている。

松田会長： 地域によっては医療機関の紹介が難しい場合もある。府医師会としても、区ごとの紹介体制の構築も含め取り組んでいきたい。

川勝委員： コロナ禍における会議等の開催方法として、現在はWEB会議が主流となっており、京都市についても、WEB会議の導入をより一層進めていただきたい。また、京都市では保健所を構成する部署が複数に分かれているが、組織として一体的に機能しているのか。

北川室長： WEB会議については、現時点で必要機材が十分に配備できていないという課題があるが、今後もしっかりと導入を進めていく。また、保健所業務については多岐に分かれているため、場所が離れた複数の部署に分かれて保健所を構成しているが、必要に応じてしっかりと連携を図っている。

松田会長： コロナ禍においてWEB会議の重要性は高く、京都市としても厳しい財政状況下にあるかと思うが、是非とも前向きに導入を検討していただきたい。また、京都市では先般の組織改正において保健所を本庁課に集約されているが、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとした各種保健所業務については、地域レベルでの対応が求められるケースも多いため、地区の役割についても改めて見直しをお願いしたい。

川勝委員： 京都市保健所による災害対策について、災害拠点病院をはじめとした各種関係機関との連携をさらに強化していく必要があり、この点についてもしっかりと対応をお願いしたい。

北川室長： 本市では、令和元年度に災害時の医療救護活動マニュアルを策定し、令和2年度からは予算を確保して、より一層災害対策の取組を進めているところである。また、災害拠点病院と行政の連携について、京都では京都府庁が担当であるため、本市としてもしっかりと連携を図っていく。

山田係長： 災害時医療救護活動に係る取組や課題等について、平時から関係団体と協議できる場の設置についても現在検討しているところである。

夏目委員： 新型コロナあんしん追跡サービスについて、現時点で当サービスの登録数は何件ほどあるのか。

井上課長： 登録数に係る資料が本日手元になく、詳細な数が分からず申し訳ない。当該サービスは本市の行財政局が所管しており、保健所と連携してシステムを運用している。当該サービスの登録数は増えてきているが、現時点では、当該サービスを使用した事例は発生していない。

夏目委員： 当該サービスについては先日初めて耳にした。多人数が集まる研修会等でも活用できると思うので、今後もしっかりと周知に努めていただきたい。

松田会長： 京都市における新型コロナウイルスの新規陽性者数について、他の指定都市と比較してもかなり少なく、保健所によるクラスター対策が徹底されているという反面、そもそものPCR検査数が少ないことが原因との意見もあるが、これについてはいかがが。

井上課長： 府医師会等と連携し、濃厚接触者への徹底した調査など、クラスター対策にしっかりと

と取り組んできた結果である。また、他の指定都市と比べて、京都市にはあまり大規模な繁華街がないことなど、地域の特性なども起因していると考えられる。これまで実施した検査のなかで、一定の陽性者数も特定できているため、今後とも徹底した感染対策に努めていく。

松田会長：徹底したクラスター対策や、陽性患者の迅速かつ適切な把握が陽性者数をこれまで抑えられてきた大きな理由であると考えられる。京都市においては、引き続き感染症対策に努めていただきたい。また、感染者の情報の取扱いについて、非常にデリケートなものではあるが、情報がないと地域の医療機関が無防備で濃厚接触者の検査を行うことになってしまうため、地区医師会への情報提供等についても対応いただきたい。

小川委員：発表されている感染者数は日本人に限ったものか。外国人への対応はいかがか。

井上課長：外国の方は、入国時に2週間の健康観察期間があり、保健所がモニタリングしているため、特に問題は生じていない。また、市内在住の外国の方については、日本国籍の方に比べ陽性者が多いということはない。

松田会長：感染症対策については、年末年始の対応が課題。医師会としても、京都市と連携し、しっかりと診療体制の確保に取り組んでいきたい。

4 閉会あいさつ

北川 健康長寿のまち・京都推進室長